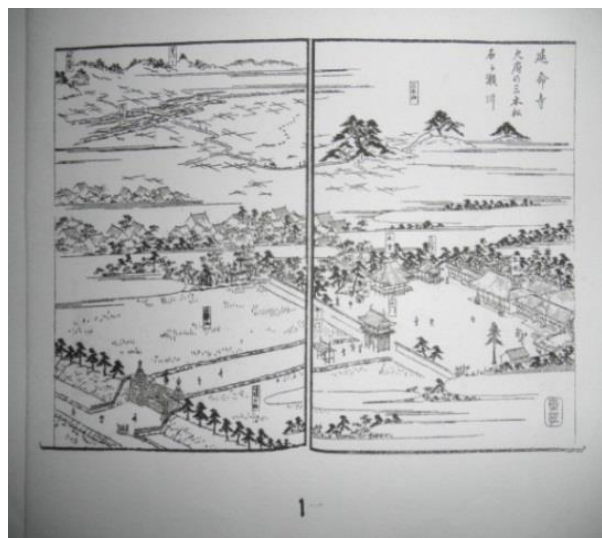


熱田神社コース



ふるきとガイドおおぶ

高山古墳



天保12年（1842）発行の尾張名所図会に知多の名所として「大府三本松」が描かれていて三本松の一本が高山に有り傍らに「役行者石像」があった。高山より北西にあった二本は鉄道建設のレールで根を痛めたのか枯死した。

大正末期高山の老松が枯死したので根を掘った処、5～6世紀頃の石廓が発見され古墳と分かった。

出土遺物の多くは不明だが鏡、鉄鍬（てつぞく）は歴史民俗資料館に保管されている。

古墳は横穴式石室で高さ3m以上、直径20m以上の中型円墳である。

高山の入り口右側には「高山古墳」の表示があり、「津島社」「役行者」「秋葉社」と続き、拝殿正面は「高山神社」左側には青面金剛を祀った庚申堂があり、つづいて高山神社鎮座古墳跡、三樹魂碑の碑文ある。

碑文は石廓の石で造られていたとのこと。

毎年4月15日に神主を迎え祭礼が行われている。

八幡社(南島)



創建は不明だが品陀和気命（ほむだわけのみこと、応神天皇）で戦の神様を祀っている。天保4年（1833）の棟札（むなふだ）に「奉造立若宮八幡宮」と記されているところから、当時は若宮八幡宮と称し明治以降八幡社と改称された。この場所は高台でかなり遠方まで眺められたようで樹木が生い茂り、当時の社地は約3,000㎡あった。東海道線建設の為3度も分断され、現在は約615㎡になった。

境内には「山ノ神社」「秋葉社」「下居土社(祭神水神)」「稻荷社」が合祀されている。

明治までは延命寺の支配下にあった。

昭和44年（1969）作の石碑によれば、寛文十一年（1671）大府村庄屋五兵衛並びに六右門等らが連署で尾張藩に願を出して建立した。

祭礼は毎年9月15日に行っている。

熱田神社



拝殿



日本武尊像

由緒

(朝日町4丁目26番地)

朝日町4丁目26番地に所在し、日本武尊を祀る。景行天皇の40年(110)、日本武尊は東夷征のさい、大高の氷上の里(妃宮簀姫居住地)を東下し、大府の地を通行する途次、この地で休息した。後年、嘉吉元年(1441)に、永井七兵衛が尊の休息地に、一社を創建したのが創祀と伝えられている。

『寛文村々覚書』(以下『寛文覚書』と記す)に「村神」の名がみえ、所蔵する棟札に、寛政2年(1790)をはじめ、他の二枚に「村神社」と記されているところから、江戸期は村神と称して宝竜山延命寺の支配下にあった。明治にいたって熱田神社と称したが、いつのころからか熱田社となり、昭和40年(1965)に、再び熱田神社と復称した。明治4年(1871)には村社に列せられ、大正10年9月13日に神幣帛供進神社(いずれも旧社格)に指定された。

江戸末期頃の境内はわずか一畝二六歩(約184.8平方メートル)の狭小な土地であったが、明治から昭和初期にかけて隣接地の寄贈が相次ぎ、7038平方メートルに達するほど境内地は広がり、他社に例をみない特異な事例である。また、現在の本殿(神明造)・祭文殿・拝殿などは昭和44年(1969)7月に竣工され、市内における鉄筋コンクリート造りの第一号である。

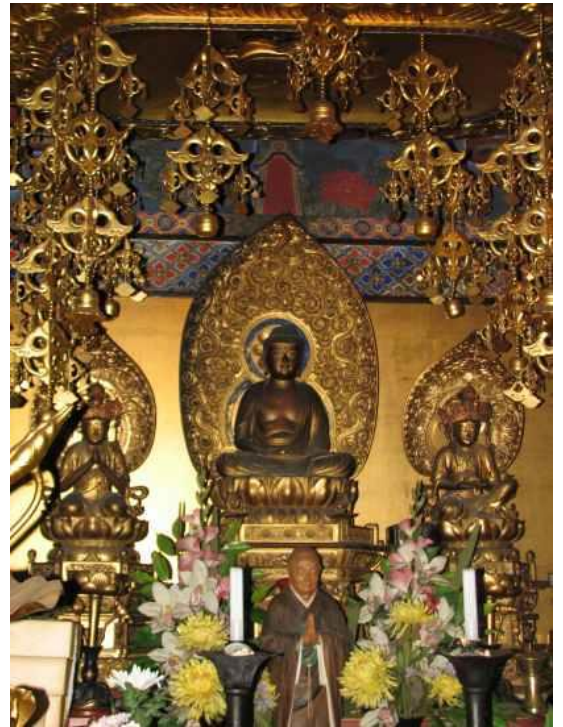
境内社の三峯神社は天照皇大神と山峯大神(伊弉諾尊・伊弉冉尊)を祀る。江戸時代はこの社を「お鍬さん」と呼び、文化11年(1814)の「堂社書上帳」(延命寺所蔵)に、同村同村右境内

「一、村神壺社 一、鍬宮壺社」と記される。文化8年の「神社書上帳」(同寺所蔵)に、「天照大神祭」とあり、所蔵する天保9年(1838)の棟札に、「奉再建御鍬太神宮社一宇守護所」とある。江戸初期より中期にかけ、伊勢を中心として各地に伝播した民間信仰として、伊勢両宮の御田神事に用いた鍬と称する鍬のかたちをした桑木を、村人たちが田圃をもち巡り、五穀豊穡を祈って最後に村神の祠に祀った御鍬信仰というのがある。大府でも御鍬信仰が行われた。その後、神明社と称していたが、埼玉県秩父の三峰山から山峯大神を勧請(年代不詳し、神明社に合祀、社名を三峰神社と改称するにいたった。

専唱院



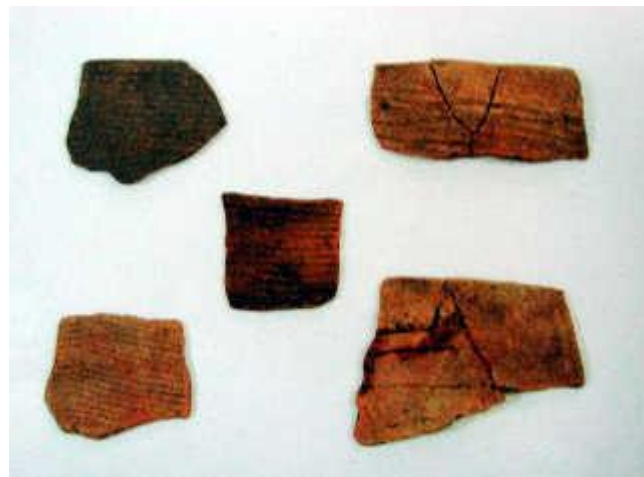
本堂



御本尊

御本尊 阿弥陀如来 浄土宗 山号 名号山である。
東浦町緒川「善導寺」の末寺、創建は不明です。
最初は辻堂の小庵であったが天正年間（1573～1592）緒川善導寺の和尚が
「如意輪観世音菩薩」を奉安し一寺とする。
本堂の他「観音堂」「波切不動明王」「いぼ地藏堂」がある。
大字大府の人々は、厄年の節分にこの観音堂で厄払いの豆まきを行っている。
寺宝
「鉞彫(なたぼり)龍頭観音立像」（円空作）がある。

棧敷(さんじき)貝塚



棧敷貝塚出土 土器

位置

朝日町五丁目106番地および上段の斉藤伝作所有の畑に現存する。ここは熱田神社(朝日町四丁目26番地)南方約100mにあたる。

地形的には、大府市街が形成されている大地が沖積地に向かって舌状に延びた、標高10mの南縁辺に立地する。前面の沖積地には住友重機械工業株式会社あり、その先には境川、石ヶ瀬川が南流して衣ヶ浦に注いでいる。

対岸には東浦町取手貝塚、刈谷市中手山貝塚、山の神遺跡などがある。

調査

昭和6年(1931)発行の「郷土之歴史」大府之巻によれば、発見は大正14年(1925)で、専唱院前の不動道を開設した際に貝塚を確認したとある。こときの遺物は山村敏行が鑑定した。この貝塚は不動道開設で滅失したと考えられていた。

昭和37年(1962)、住友重機械工業株式会社が設立された。これにともなって社員宿舎が必要となり、熱田神社の南に土地を削平して石ヶ瀬寮を建てた。この際、削った土中の土器や貝類などが混じているのを、谷沢靖(当時刈谷高等学校教頭)が発見し、これを採集した。

昭和41年(1966)刊行の「大府町史」には、棧敷貝塚は、大字大府の不動道が、延命寺東方に向かって急降する崖淵に約二畝にわたって約50糎の厚みで貝層が横たわる小規模な貝塚であつたらしい。大正14年、道路開設の際、完全に壊滅し、遺物も記録も存在しないので詳細を極め得ない。当時の目撃者談によると貝層に混入された赤褐色の土器片は条痕文であつたというから、その土器片が縄文晩期か、弥生前期か、或いは土師器なのか、今日では編年づける事は出来ず、永遠の謎となつたのは惜しみてあまりある。当時の海岸線は4軒位現在よりも後退していたらしい。

とあり戦後も長い間滅失したと考えられていた。

昭和56年(1981)、「大府市誌」発行の基本方針、事業計画が決定され、資料の収集が始まった。棧敷貝塚の存在も問題となり、市誌関係委員会が貝塚の聞き取り調査に努めた。近世編集委員鷹羽信男が新居一郎から貝塚の現存を聞き、市誌編さん室へ報告された。さっそく現地踏査をし、新居宅の北の斉藤伝作所有の畑で貝層を確認した。貝塚の貝類はマガキが圧倒的に多かった。谷沢靖が採集した遺物は大府市に寄贈され、市歴史民俗資料館に保管されている。

おしも井戸



おしも井戸

弘仁3年（822）6月弘法大師49才の時「見返り大師」と呼ばれる三弘法を自ら彫刻した。

知多の浦（衣ヶ浦）巡視のため夕方刈谷に着き宿を頼んだが皆断られ、大府のこの地へ来て「おしも」と云う老婆の家で一泊した。

大師は朝起きると顔を洗う井戸が無いのを知り、老婆を哀れみ自分の杖で祈念を込めて地面を掘るとたちまち清水が吹き出した。その井戸を老婆に授けた。その井戸は年中冷水が湧き村人達に喜ばれたと云われていた。

現在は当時の場所から移動し、今は清水は出ない。

延命寺NO1



客殿



文殊楼門

御本尊 延命地蔵菩薩 天台宗 山号宝龍山である。

蜜蔵院（春日井市熊野町）の末寺。当寺に所蔵する「由緒取調」などによれば、盛祐上人（じょうゆうしょうにん）により鎌倉時代に開創されたようであるが、その草創年次は不詳である。

室町初期には、藤井神社の別当寺として栄え、七堂伽藍（しちどうがらん）をはじめ山内に塔頭（たっちゅう）を擁していた。中期以後には衰退した。しかし、享祿四年（1531）比叡山より慶済が晋住して中興開山となり、昔日のごとく復興した。

天文二年（1533）七月には、後奈良天皇より「寶龍山」の勅額を賜った。二世仙慶も比叡山より来錫し、三世真慶は緒川城主水野家より出家した人であった。

「文殊楼門」

天保年間に再建された文殊楼門は、熱田の宮大工喜兵衛の手によるもので、楼上には文殊菩薩が安置されている。

延命寺NO2



刺繍普賢菩薩像

「寺宝」

刺繍普賢菩薩像（室町時代）	県指定文化財
文殊楼門（江戸時代）	市指定文化財
墨書大般若経（南北朝～室町時代）	同
勅額（室町時代）	同
造阿弥陀如来坐像一軀（南北朝時代）	同
その他多数有り。	

客殿屋根に水野家家紋、金箔の家紋がある。

JR大府駅



旧駅舎



夏まつり

明治の初期、近代化の第一歩として政府が推し進めた政策の一つに、東京と関西を結ぶ幹線鉄道の建設がありました。当初、幹線鉄道には中山道案が採用され、武豊線はこの幹線鉄道敷設工事において、武豊港（知多郡武豊町）に陸揚げした建設資材の運搬用に、「半田線」の名称で計画されました。明治18年（1885）、愛知県武豊港から中山道幹線が通る岐阜県の加納駅（現在の岐阜駅）までの仮敷設工事が始まり、明治19年（1886）3月、武豊～熱田が単線で開業しました。同年、幹線経路が中山道筋から東海道筋へ変更となり、既に敷設されていた武豊線と、新設される東海道線をつなぐ駅として明治20年（1887）に大府駅が開業しました。東海道線は、大府から東へ東へと延長され、明治22年（1889）に東海道線(新橋～神戸間)が全通した。

現在の駅舎は、昭和53年（1978）に旧駅舎より、やや北側へ移動し建設された。毎年夏になると、この駅前で大府夏祭りがおこなわれ賑わっている。

※来るときっとイイコトがある、“健康にぎわいステーション”KURUTOおおぶ中部地区初出店のタニタカフェ、大府の特産が買える物産ショップ、大府の魅力を知ることができる観光案内、体重から体脂肪率や内蔵脂肪が算出できる体組成計など置いた、健康づくりを提案するコーナーもあります。